

木曽地域の発展方向

上松町、南木曽町、木曽町、木祖村
王滝村、大桑村

基本目標「未来につながる木曽の豊かな農業・農村と食」(仮)

農業・農村の特徴

木曽川の本支流沿いの農地は、高低差が大きく区画も狭く、水稻、そば、飼料作物が中心の営農がされている。木祖村、開田高原には圃場整備された優良農地が広がり、夏季の冷涼な気候を生かし“御嶽はくさい”等の高原野菜や、そばの産地が形成されている。畜産業は古くから“木曽子牛”として全国供給される産地である。

日本遺産に登録された、文化財や自然豊かな景勝地に訪れる観光客等を持ってなす飲食店では地元根付いた食文化（木曽牛、そば、すんき、赤カブ、ほうばまき等）を守り提供している。

地域住民は少子高齢化、産業の担い手不足が進行し、地域機能の維持が重要課題となっている。

現計画と同様の農産物産出額
円グラフ（2020年産）

現計画と同様の総農家戸数、耕地面積、
農産物産出額棒グラフ（2020年）

めざす姿

- I 多様な担い手が支え合う木曽の農業・農村
 - ・担い手への農地集積や、新規就農者が円滑に農地の確保を行える「農地計画」が作成されて農地の有効活用が図られている。
- II 木曽ブランドを支える産地づくり（土地利用作物、園芸品目、畜産）
 - ・消費者ニーズに応える「御嶽はくさい、木曽牛」産地に多様な担い手が活躍している。
 - ・地域に根差した飼料生産と、新たな技術（スマート技術等）を導入した安定的な畜産（和牛子牛出荷）が行われている。
 - ・木曽を愛する多様な担い手が活躍し、新たな品目の生産が拡大している。（野菜・花き・特産）
 - ・実需者が求める品質・数量の米、そばが安定供給されている。
- III 木曽ならではの食による地産地消と食育の推進（食の地産地商・食の継承）
 - ・木曽地域を訪れる観光客等をおもてなしする飲食店、直売所や加工所と連携した、伝統的食材が安定供給されている。

- ・子供たちが木曾の伝統食材に触れ、農業農村の大切さを将来につなげる活動が行われている
- Ⅳ みんなが生き生き暮らせる、持続可能な農村づくり
- ・DXが進展し、木曾を楽しむ半農半X、定年帰農者等多様な担い手が活躍し、農村集落とのかわりあいが強まっている。
 - ・自然災害や野生鳥獣被害の少ない安全安心で豊かな農村環境（景観）を維持している。

施策の展開方向

重点取組 1 多様な担い手が支えあう木曾の農業・農村

農業従事者の高齢化は進行しており、経営を中止する農家は増加しています。担い手不足は生産量の減少、遊休荒廃地の増加、ひいては集落機能の維持にも影響します。

実質化した「人・農地プラン」から法定化に伴う、担い手への農地集約化を明確化した「地域計画」へ移行していきます。

新規就農者は、年間2名程度を確保していますが、木曾地域の実情を考慮しながら、IUターン就農や定年帰農者等の多様な担い手を確保していきます。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
人・農地プラン、地域計画（計画数）	22	22
新規就農者等（49歳未満）の就農人数 ※5カ年の累計	13人	10人

※県全体の数値が決まってから確定

【具体的な施策展開】

○地域の関係者が一体となって話し合い、目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」を策定し実行していく。

○就農相談会、移住・定住フェア等での木曾農業の情報発信、PRによる担い手確保対策の推進

○新規就農里親研修事業等を活用した新規就農者の育成

○農業入門講座の開催による定年帰農者への支援

○高校と連携した食の魅力発信と、高校生の就農に向けた意欲の向上を図る



【研修生への個別支援】

重点取組2 木曾ブランドを支える産地づくり（土地利用作物、園芸品目、畜産振興）

一層進む高齢化、担い手不足の状況化において、農業のDX化を進め、スマート農業技術を積極的に導入し、立地条件を生かした「御嶽はくさい」「木曾子牛」の木曾ブランドを中心に、市場ニーズに応える産地（良質米、花き・花木類）強化を推進していきます。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
米の1等米比率の向上	78.9%	90%
御嶽はくさい栽培面積の維持	50ha	45ha
木曾子牛出荷頭数	5.74頭/戸	6.0頭/戸
花き・花木類の栽培面積の増加	2.25ha	2.40ha

【具体的な施策展開】

- 斑点米カメムシにおける病虫害防除組合のドローンによる適期防除支援と生産者への防除基本技術の徹底、及び収穫適期情報の提供による適期収穫の推進で1等米比率向上
- スマート農業技術等の導入による御嶽はくさいの品質及び生産性の向上
- 畜産クラスター協議会と連携したクラスター事業の推進
- 地域に適応した花き・花木の生産支援



【ドローンによる防除】

重点取組3 木曾ならではの食による地産地消と食育の推進

これまで受け継がれてきた木曾牛、伝統野菜やすんき、そば等木曾の伝統食材を木曾ならではの食として次代に継承していくため、さらなる地元の理解と地産地消を進めるとともに、観光客や郡外へのPRをしていきます。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
伝統食材提供店舗数の増加（木曾牛、すんき、木曾産そば）	57店	60店

伝統野菜等の栽培面積の維持確保 (伝統野菜 (赤カブ))	2.07 ha	2.07 ha
---------------------------------	---------	---------

【具体的な施策展開】

- 木曾ならではの食材を扱う店舗と連携した木曾地域の魅力発信
- 担い手不足や形質の保存等伝統野菜の生産組織ごとの実情に応じた継承支援による伝統野菜の栽培面積の維持
- 小中学校を対象とした食育授業等による地元農産物への理解促進と地産地消



【木曾の赤かぶ】

重点取組 4 みんなが生き生き暮らせる、持続可能な農村づくり

農業生産条件の不利地が多い木曾地域において、農業や農村が持つ多面的機能を維持していくため、多様な担い手が参加する集落協定に基づく保全管理や、鳥獣被害を防止し、持続可能な農村づくりを推進します。

中山間地の作業効率の悪い農地が耕作放棄地になることを抑制し、今後の持続的な営農を維持していくうえで、さらなる耕作条件の改善を行います。

【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
中山間直接支払事業活動面積 (面積の維持)	371ha	371ha
多面的機能払活動面積 (面積の維持)	271ha	271ha
野生鳥獣被害額の減少 (被害金額の 10%減少)	12.8 百万円	10.8 百万円
中山間圃場整備の計画面積 (整備面積 10ha 増)	819ha	829ha

【具体的な施策展開】

- 関係者一丸となった捕獲、防除、環境整備等の野生鳥獣被害対策の推進
- 多面的機能支払及び中山間直接支払事業の一層の PR により農地や水路等の保全活動による農村集落の持続を支援
 - ・取組組織数の維持及び新たな取組拡大のための制度周知と活動の支援
 - ・事務手続きに関する研修会、水路等の維持補修に関する講習会の開催
- 中山間地のほ場・用排水路・農道整備



【上松町ほ場整備】

- ・中山間総合整備事業により上松町のほ場整備を完了し、農地整備率向上を推進